



2014. 1. 9 放送分（抜粋）

あけましておめでとうございます！

今年もよろしくお願いいいたします。

いよいよ 2014 年、平成 26 年ですね。

昭和から平成になった時に、もう亡くなられた小渕さんが、テレビで『平成』の文字を高く掲げた光景がつい最近のような気がします、あれから 4 半世紀なのですね。

昭和から平成へと時代が変わって、身近なものであげるならば、携帯電話はスマートフォンへ、そしてツイッターなどの様々な通信方法が日々変化していて、ついていくのもやっとな感じの世の中です。そんな感じないですか？

昨年末、宇宙飛行士の若田さんが宇宙から高感度のカメラで地球の中の日本を映した画像がテレビで流れていて、すごいい感動しました。もう少ししたら、宇宙旅行が本当に簡単にできる世の中がくるのでしょうか。

昔読んでた漫画の世界がすぐそこにやってくるような著しい発展を遂げ、スピードアップして未来に向かっていているって気がします。

それでも昔から変わらず受け継がれていることもたくさんあるのだということを感じます。そしてホッとしたりしています。

京築地方は特にお神楽など郷土色豊かな伝統的な芸能が受け継がれている地域だと思います。

お正月には獅子舞のような文化も残っていますよね。京築消防の中にもこのような郷土の伝統芸能に携わっている職員がずいぶんいますよね。

ところで消防と言えば、昔から新年の始まりは出初式ですね。そこで出初式の始まりを調べてみたんですよ。

新春行事の一つになっている消防出初式の起源は、江戸時代の 1659 年にさかのぼります。江戸時代の江戸では火事が頻発し、江戸城天守閣を含む江戸の大半が焼失、三万人から十万人と推計される犠牲者を出し、江戸の歴史上最大の被害となった大火を契機として、江戸幕府の旗本がひきいる「常火消」の顔見世である「でぞめの式」が行われたのが始まりといわれています。当時大火の後の苦しい復興作業に絶望的な状態にあった江戸市民に、大きな希望と信頼を与えたそうです。

このことが契機となって定火消の「出初」は、毎年 1 月 4 日上野東照宮で行われることとなり、次第に儀式化され、恒例行事となって今日の出初式に受け継がれています。

明治維新後、第1回東京警視庁消防出初式が行われ、明治32年には「消防出初式順序」が制定された。昭和4年1月6日には昭和天皇ご臨席のもと、特設消防隊と全国消防組の親閲式が行われています。

昭和23年3月7日、消防組織法と消防法が制定され自治体消防が誕生し、消防機関は常備消防である消防本部と非常備消防である消防団の2種類となりました。東京では消防本部として東京消防庁が誕生し、翌年1月15日には東京消防出初式が開催された。東京消防出初式は昭和28年から1月6日の開催となり開催場所を皇居前広場、明治神宮外苑、晴海埠頭、東京ビッグサイトと変更しながら現在も毎年1月6日に行われています。この様子はテレビで見かけることがあります。梯子の曲乗りとかしていますよね。

地域によってさまざまな行事が行われているようですが、一斉放水・避難救助などの消防演習、木遣り歌など伝統技能の披露や消防車のパレード、消防職員や消防団員や消防功労者に対する表彰などもおこなわれています。

京築広域圏消防本部では出初式という名称ではなく、点検式といいます。この日は消防管理者(現在は、豊前市後藤市長)や消防委員さん方に特別点検を受けます。その後職員の永年勤続表彰があります。また毎年様々な救助や救出の訓練が披露されます。

京築広域圏消防本部管内においても、東日本大震災を機に皆様方の防災に対する関心は年々高まっているため、当消防本部でも、各自治会や学校から防災講演会などの依頼が増えてきている状況です。

このような中であって、京築広域圏消防本部では、地域消防団の方々との連携をより一層深めながら、研修や訓練において住民の皆様が求めている防災のあり方を、明確に伝えるためには、どのような方法が必要なのかを常に研究し、災害に強い、安全で安心な地域づくりを目指したいと考えています。どうぞ本年も皆様方のご支援と御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

今年も皆様が必要としている消防の情報をよりわかりやすい形で伝えていけるように努力していきますので、皆様方からご意見やご要望をお聞かせいただければ大変嬉しいです。よろしく願いします。

今年の抱負など・・・

リスナーの皆様、今年もよろしく願いいたします。

京築広域圏消防本部 総務課 総務係
